

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー（証券コード：－）

### 【新規】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

## ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（証券コード：－）

### 【新規】

外貨建長期発行体格付	A+
格付の見通し	安定的

## ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（証券コード：－）

### 【新規】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

### ■ 格付事由

- (1) ロイヤル・バンク・オブ・スコットランドは英国エディンバラを本拠とし、主に英国やアイルランドを基盤とする金融サービスグループ。ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー（RBSG）はグループの持株会社。子銀行を通じて、個人、企業、機関投資家に多様な金融サービスを提供しており、ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（NatWest Bank）は英国リテールや商業銀行業務、ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（NatWest Markets）は投資銀行業務を担う。ロイヤル・バンク・オブ・スコットランドのグループ信用力は「A+」相当とみている。これは、主に英国リテールにおける堅固な事業基盤、健全な資産の質と堅固な資本基盤などを反映している。他方、近年改善傾向にあるものの収益性が低水準であることが信用力向上の課題である。レガシー資産やその他リスク性資産を大幅に削減する中、訴訟や不適切販売に対する補償さらにはリストラなど多額の費用の計上がほぼ一巡し、利益は改善傾向にある。グループは英国のリテールや商業銀行業務、さらにはデジタルバンキングに注力していく計画であり、先行きも英国リテールの高い収益力やデジタルバンキングの推進による経費削減などがコアの利益を支えていくとみている。また、資産の質の改善が進む中、資本は配当や政府が保有する RBSG 株式の一部買い戻しなどがあるものの、現状の堅固な基盤を維持するとみている。英国の EU から離脱による経済への影響は予断を許さないが、長期的な景気後退がなければ十分耐えうる財務基盤を有している。
- (2) 19年1月から実施された英国リングフェンス規制に伴い、RBSGの傘下にリングフェンス銀行と非リングフェンス銀行を分割する組織再編を18年中に完了した。これにより、リングフェンス内の銀行は英国を含む欧州経済領域（EEA）のリテールや商業銀行業務が中心となる一方、リングフェンス外の銀行はリングフェンス銀行ができない銀行業務を担うこととなった。グループの17年末連結総資産残高は7,380億ポンドと英国金融グループでは第4位。事業セグメントは、英国パーソナル・アンド・ビジネス・バンキング（UKPBB）、コマーシャルバンキング（CB）、ナットウエストマーケッツ（NWM）など7部門に再編された。UKPBBはリテール銀行業務を提供しており、英国では堅固な事業基盤を有し、同国人口の4分の1に相当する1,700万を超える個人顧客基盤を保有している。英国の住宅ローンでは上位5行が残高ベースで全体の7割近くを占めるなど上位行に集中した市場構造となっており、18年9月末の市場シェア

は 10%程度まで上昇している。デジタルバンキングの推進によりモバイルアプリの利用者数は 640 万を超えるまで急増する一方、支店数は 850 と過去 5 年で半減している。CB は中小企業や大企業を対象に銀行業務を提供しており、英国では一定の基盤を有している。NWM はリングフェンス外の銀行である NatWest Markets を通じてデリバティブ、債券トレーディング、大企業や機関投資家への債券市場へのアクセス支援など投資銀行業務を提供している。この他にも子銀行を通じてプライベートバンキングやアイルランドでもリテール銀行業務を展開している。なお、英国の EU 離脱後はグループのオランダ子会社 NatWest Markets N.V.が NatWest Markets の傘下となって EEA における企業や機関投資家向けの投資銀行業務を行うこととなっている。

- (3) 18/12 期のグループ連結の総収益構成比は UKPBB、CB、NWM が大半を占め、それぞれ 47%、25%、11%。地域別では英国が 91%を占める。訴訟や不適切販売に対する補償さらにはリストラなど多額の費用など特殊要因の計上がほぼ一巡し、18 年も純利益を計上した。しかし、ROA（税前利益）は 0.5%と収益性は低水準にとどまっている。同期の特殊要因を除いた貸倒引当利益は 60 億ポンド、このうち UKPBB が全体の 54%、CB が 27%と 8 割以上を占めるグループの主力事業。UKPBB の純金利マージンは低金利および競争環境にある中でも 3%近くを維持し、貸出残高も住宅ローンを中心に伸びている。グループ全体の経費率（特殊要因を除く）は従業員や支店の削減から大幅に低下しているほか、与信費用も抑制されている。他方、過去 3 年だけでみても特殊要因の合計額は貸倒引当利益（特殊要因除く）の 8 割を超える規模となった。しかし、18 年 5 月の米住宅ローン担保証券訴訟の米司法省との和解や英国の所得補償保険の不適切販売に対する補償の進展を受けて、こうした多額の費用が発生するリスクは後退したとみている。
- (4) リスク性資産が大幅に縮小する中で資産の質が改善傾向にある。18/12 期末の総資産は顧客貸付 46%、デリバティブ 19%、現預金など 13%、トレーディング資産 11%などから構成されている。顧客貸付残高は 8 割以上が英国に集中している。住宅ローンが貸付全体の 5 割を占めるが、その他は産業別に分散されている。大口与信の集中リスクも小さい。担保付が全体の 7 割以上を占めており、住宅ローンの加重平均 LTV は 57%にとどまっている。18/12 期末の不良債権比率は他の大手英銀行と比べてやや高いものの、14/12 期から低下傾向にある。アイルランドの住宅ローンの不良債権を 19 年 1-3 月期に売却することが既に決まっており、短期的に不良債権比率はさらに低下する見込みである。デリバティブは顧客に対するリスクソリューションが中心でありネットのポジションは僅かである。トレーディング資産はリバースレポ、現金担保付のデリバティブ、さらには投資適格の国債などで占められている。市場リスクも全体として低位に抑えられている。
- (5) 資本はリスク量対比で十分な厚みを有している。18/12 期末のグループ連結の普通株式等 Tier1（CET1）比率は 16.2%と高い。赤字の継続から資本は縮小傾向にあったものの、リスク性資産の大幅な削減が奏功している。08 年と 09 年に政府から注入された公的資金は全て普通株式に転換されている。現状、政府は全議決権の 6 割以上を保有しているが RBSG は株主の承認を受けて、4.99%に相当する株式を政府から買い戻す計画である。買い戻しは政府の裁量余地があるが、政府としては、市場環境や株価にも左右されるが、現状 24 年までに保有分を全て売却する計画である。資本は配当や政府保有株式の一部買い戻しなどがあるものの、現状の堅固な資本基盤は維持可能とみている（会社計画では CET1 比率 21 年までに 14%が目標）。預貸率は預金以上に貸付残高を抑えてきたことから 85%まで低下している。市場からの調達も少なく、潤沢な流動性を保有している。

#### 発行体：ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー

グループの持株会社であり、発行体格付は、グループ信用力を反映した中核子銀行（NatWest Bank）の発行体格付から 1 ノッチ下としている。これは主にイングランド銀行の破綻処理の枠組みにより、破綻処理時の損失を持株会社の債権者が重点的に吸収するシングル・ポイント・オブ・エントリー（SPE）を採用していることによる。

### 発行体：ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー

グループの中核子銀行であり、5 行から構成されるリングフェンス銀行の中で最大の銀行。発行体格付はグループ信用力と同水準としている。英国を中心に堅固なリテールの事業基盤を有し、総収益はグループ連結の 18/12 期の 6 割以上を占めており損益動向はグループの利益を左右する。また、資産の質は健全であり、自己資本、流動性など問題ない水準が維持されている。

### 発行体：ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー

グループの投資銀行業務を担う非リングフェンス銀行。JCR ではグループ内では、その戦略的な重要性はリングフェンス銀行と比べて高くないとみており、発行体格付をグループ信用力から 1 ノッチ下とした。事業特性上、資金調達に預金に加え市場からの調達が重要となる。また、非リングフェンス銀行は単独での流動性管理、自己資本規制、自己資本及び適格債務の最低要件（MREL）の順守が求められる。イングランド銀行の破綻処理の枠組みに基づき RBSG がベイルイン可能な債券の発行を通じて調達した資金の一部が NatWest Markets の適格債務などに投資（内部 MREL）されている。これにより、持株会社からの一定の支援が期待される。資産の質は資本市場を中心とした業務が中心であることからグループ全体と比べてやや劣るものの、自己資本や流動性は堅固。残存のレガシー資産を 17 年に統合したが、保有するサウジアラビアのアルアウワル銀行株式を 19 年中にも売却する計画であり、リスク性資産がさらに縮小する見込みである。18 年の損益動向は多額の訴訟費用などの計上から継続事業は赤字となっている。

（担当）内藤 寿彦・宮尾 知浩・佐伯 春奈

#### ■ 格付対象

### 発行体：ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー

（The Royal Bank of Scotland Group plc）

#### 【新規】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

### 発行体：ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（National Westminster Bank Plc）

#### 【新規】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A+	安定的

### 発行体：ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（NatWest Markets Plc）

#### 【新規】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

